

[ 普及事項 ]

新技術名： リンゴ新品種「秋田紅あかり」の育成（平成1～13年）

研究機関名 果樹試験場 栽培部 品種改良担当  
担当者 上田仁悦・丹波 仁 他5名

[ 要約 ]

リンゴの新品種「秋田紅あかり」を育成した。この品種は10月下旬～11月上旬に収穫可能な大玉の晩生種で、鮮紅色の果皮に果点が浮かび上がる特徴的な外観を有する。食味は極甘で、貯蔵は冷蔵で翌年の2月下旬まで可能である。主要な一般品種と交配和合性を示す。

[ ねらい ]

「ふじ」に偏った品種構成を是正し、多様な消費者ニーズに対応できる新品種を育成する。

[ 技術の内容・特徴 ]

1. 育成経過

- 1) 本品種は、果樹試験場内の平成元年から開始した台木試験ほ場で、平成8年に発見された偶発実生であり、平成10年春から「秋田14号」として現地試験を開始し、同13年秋に育成を完了した。
- 2) 平成14年2月15日に果樹試験場職務育成品種審査会の承認を経て品種登録申請を行い、同年3月25日付けで受理された。

2. 特性

- 1) 本品種の自家不和合性に関与する遺伝子型を調査した結果、S2の遺伝子型をもつ「王林」、「金星」等と、Sfuの遺伝子型をもつ「千秋」、「ふじ」等の関与が予想された。
- 2) 果実外観は、果皮が鮮紅色に着色し、果点が浮き上がる特徴を有する（写真）。
- 3) 果実肥大は良好で、県南、県北部での果重差は認められない（第1図）。
- 4) 食味は、糖度が高く、酸味の少ない極甘系である（第1表、第2、3図）。
- 5) 貯蔵性は、常温で年内までと予想される（第4図）。冷蔵では、年を越しても果汁が多く果肉の粉質化もみられないことから、2月末まで可能である。収穫が遅れた果実では、貯蔵中に果皮にワックスが発生する場合がある。
- 6) 交配和合性は、「ふじ」等、主要な一般品種と和合性を示す。
- 7) 斑点落葉病に対して、「紅玉」並の抵抗性が認められる。

3. 期待される効果

「ふじ」偏重の品種構成が是正され、受粉環境の改善が図られる。

[ 普及対象範囲 ]

県内リンゴ産地全域

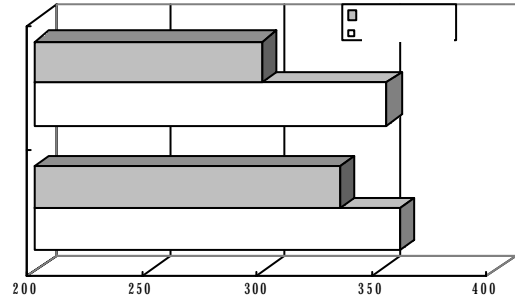
[ 普及・参考上の留意事項 ]

1. 果実の着色には、同一樹内でのばらつきや園地間差、年次変動がみられる場合があるため、高接ぎは樹勢の落ち着いた樹に行う。
2. 高接ぎ後は枝先が水平より下がらない程度に誘引し、花芽の充実を図る。
3. 高接ぎ樹への施肥は、樹勢が安定するまで窒素施用量を減ずるか無施用とする。

[ 具体的なデータ等 ]



「秋田紅あかり」成熟期

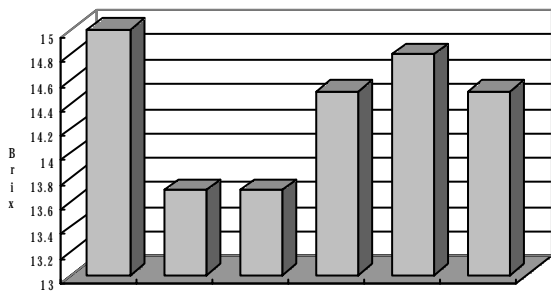


第1図 「秋田紅あかり」と「ふじ」の果重の比較

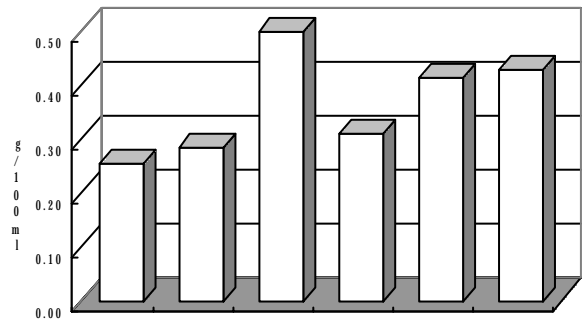
第1表 「秋田紅あかり」の果実品質 (平成9年～14年)

収穫日	果重 (g)	果径(mm) 対 径	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	着色 <sup>z</sup> 指数	心かび <sup>y</sup> 指数	デンプン <sup>x</sup> %
平成9年 10月22日	348.6	86.7 91.2	14.2	14.2	0.255	88.0	0	3.0
平成10年 10月27日	285.6	78.9 83.7	15.2	15.1	0.295	100.0	0	2.8
平成11年 11月4日	310.2	81.3 88.8	13.7	14.9	0.255	88.0	0.5	2.5
平成12年 10月30日	407.5	93.0 95.7	13.1	15.0	0.255	98.5	0	2.9
平成13年 10月26日	334.4	85.4 92.2	12.9	14.2	0.248	93.0	0	2.8
平成14年 11月5日	442.0	89.1 89.1	10.2	13.1	0.249	62.0	0.6	1.4

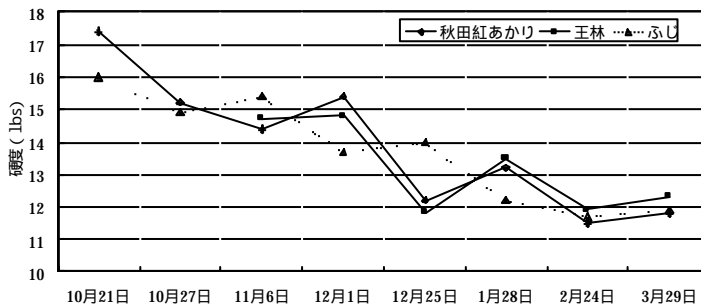
z: 着色面積割合(全面着色で100) y: 心かびの発生程度で5段階(無; 0~多; 5) x: デンプンの染色面積で5段階(全面染色で5)



第2図 「秋田紅あかり」と主要品種の糖度の比較



第3図 「秋田紅あかり」と主要品種の酸度の比較



第4図 貯蔵中の果実硬度の推移(平成10年)

[ 発表文献等 ]